

## 新緑の季節

一ヶ月前には春が足踏みするような陽気が続き、植物の開花や生き物の産卵が例年より遅れて心配しました。落葉樹林の林床をかざるカタクリやシュランの花、そしてそれらの中間に生活圏をもつ低木層のクロモジやツクバネは高木が芽吹いていない中で開花や芽吹きを開始、高木層のヤマザクラが褐色の葉を展開する季節を迎え薄白い花を開花させるとコナラの若葉は白みがかった淡い緑色した芽吹きを始めました。

活動拠点ではヤマザクラの透明感のある気品と繊細な美しさは自然の巧みな無駄のない別格な存在感があります。芽吹きの時期はどんな木々も若葉の色や形が違い、個性が際立ちます。



青空に映えるヤマザクラ

4月中旬に気温が上昇して夏日が4日連続すると活動拠点の芽吹きが一気に勢いづき鮮やかな淡い緑に包まれました。



眩いコナラの芽吹き

芽吹きした林の中は気分爽快。木漏れ日の揺ら揺らした光や風の感触、心地よい鳥のさえずり、思わず深呼吸して空気を吸いたくなるほど心身がのびのびとリラックスするのを感じることができます。

## 命を育む大切な環境

豊かな自然に恵まれていると言われている地域では里山の環境が失われつつあります。

いつの間にかその姿を見かけなくなった生き物も少なくありません。

活動拠点ではヒキガエルの長いひも状の卵のうが十年前から見られなくなり、夏にコナラの樹液に集まっていたオオムラサキも一昨年から見られなくなりました。活動拠点の周辺の越冬幼虫の個体数はその数が減っています。

一般に野生生物は個体数が減少すると孤立して局地的な生息区域に分かれ、その狭い範囲の生息域が破壊されれば全滅してしまいます。「まだ、あっちこちに生息が確認されているから問題がない」と思っていたら突然に姿が見えなくなり消滅したということも起こってしまうでしょう。

活動拠点の小さな田んぼには「水田雑草」と呼ばれていた厄介者のミズニラ、キクモ、オモダカ、コナギがみられ、春になればトウキョウサンショウウオ、ヤマアカガエルの産卵が見られます。

私たちは激変する社会に流され、今日まで失ってきたもの、これから失おうとしているもの、本当の意味の「豊かな自然」を次世代に残すために何ができるのか考えていく時代になりました。



ヤマアカガエルの卵塊



トウキョウサンショウウオの卵のう